

安全安心な

水

を安定的にお届けするために

～水道料金の改定について～

上下水道室業務課

名寄庁舎 ☎01654③2111 (内線 3361 ~ 3363)
風連庁舎 ☎01655③2511 (内線 2207 ~ 2208)

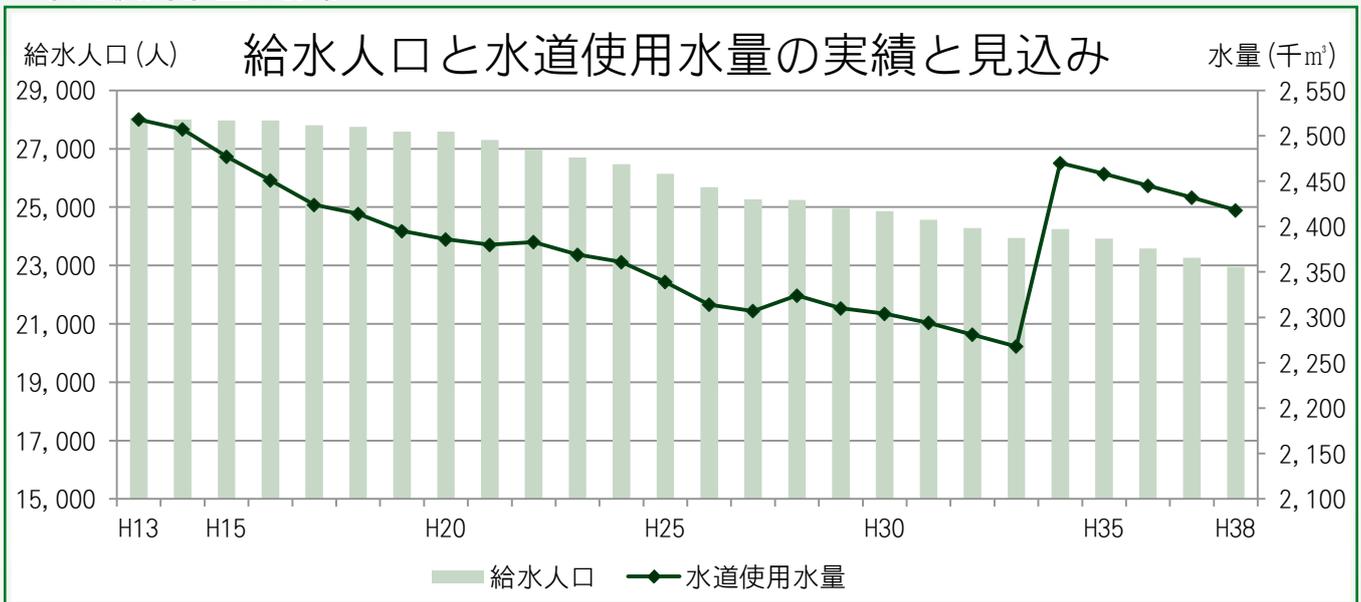
第2回 水道使用水量の減少について

平成31年4月から水道料金を改定することとなりました。

現在、市水道では、人口減少や節水機器の普及による水道使用水量の減少、水道施設の老朽化など、将来にわたりさまざまな課題を抱えています。

連載2回目の今回は、収入に直接影響する水道使用水量の減少についてお知らせします。

■水道使用水量の推移



平成14年度に料金改定を行った前年からの給水人口と水道使用水量の推移です。(旧風連含む) 水道使用水量は、平成28年度に旧簡易水道事業の統合、平成34年度に自衛隊への送水(予定)のため増加しておりますが、年々減少しており、今後も人口減少などの影響を受け、減少していくと予想されます。給水人口の減少が大きな要因であります。家庭での節水意識の高まりや節水機器(トイレ・洗濯機など)の普及も要因としてあげられます。

■10年前のトイレと洗濯機の使用水量を比較してみました

※市上下水道室業務課調べ

●トイレの比較

一人1日あたり、大1回、小3回の使用、4人家族であると仮定して比較しました。

トイレタイプ	1回あたり使用水量	年間使用水量
従来型	大13リットル、小8リットル	54,020リットル
節水型	大6リットル、小5リットル	30,660リットル
	差	23,360リットル

=約23立方メートルの減少

●洗濯機の比較

水槽式(8kg)洗濯機で、2日に1回洗濯する場合で比較しました。

調査年	1回あたり使用水量	年間使用水量
2005年	122リットル	22,204リットル
2016年	98リットル	17,836リットル
	差	4,368リットル

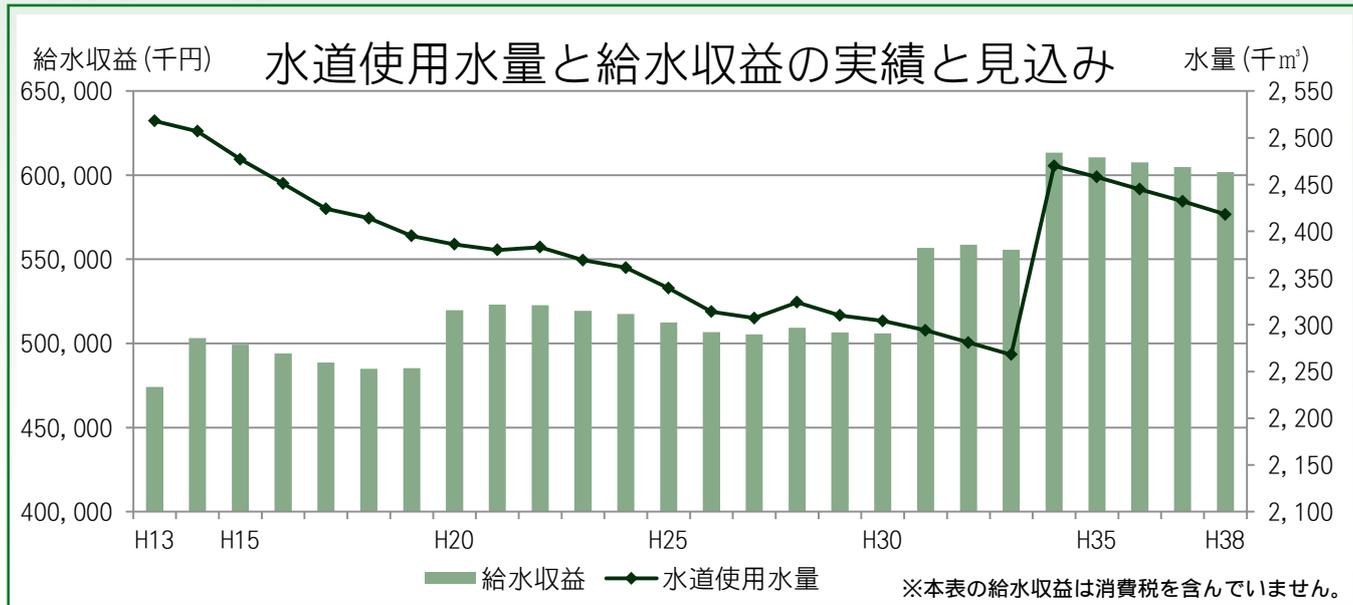
=約4立方メートルの減少

ドラム式洗濯機はさらに使用水量が少なく済むため、より一層節水となります。

※一つの例であり、必ずしもこのようになるわけではありません。

節水は、限られた資源を大切に使用することと、家計の節約にとってたいへん有効なことであります。「節水しているのに料金が値上がりする、値上がりするから節水する・・・」という声もあり、「節水」することが水道事業を維持するための「収益」の減少となり、結果として料金値上げにつながってしまう難しい関係にあります。将来にわたって安全安心な水を供給するために、このたびは水道の利用者みなさまに料金の値上げをお願いすることとなりました。

■給水収益の推移



こちらは水道使用水量と給水収益の推移です。

平成14年度に料金改定、平成20年度に料金統一、平成28年度に簡水統合を行っており、それらの要因による給水収益の増加がありました。そして今回、平成31年度に料金改定、平成34年度に自衛隊への給水(予定)があるため収益の増加を見込んでいますが、水道使用水量の減少とともにその後も減少しています。

◆水道事業は、法令に基づき地方自治体が経営する企業として運営され、事業に要する経費(施設の維持管理や更新に必要な費用)は、水道料金収入をもって充てる「独立採算制」を基本としています。このため、水道使用水量の減少により、営業収益の約80%を占める料金収入が減少することは、経営状況を悪化させる大きな要因となっています。

●第3回は「水道施設の老朽化と更新費用」についてお知らせします。



詳しい内容は、市ホームページの「水道料金改定のお知らせ」を見てね。

HP <http://www.city.nayoro.lg.jp/section/suidou/prkeq1000001s0xe.html>

